

かながわ脱炭素ビジョンの概要

脱炭素社会にむけた具体アクションに向けて

2022年2月25日（金）

IGES気候変動ウェビナーシリーズ：地域・都市が主役の脱炭素に向けた取り組み②

栗山 昭久

研究員、気候変動とエネルギー領域



This publication was produced with the financial support of the European Union's Partnership Instrument. Its contents are the sole responsibility of Institute for Global Environmental Strategies (IGES) and do not necessarily reflect the views of the European Union.



発表の趣旨

かながわ脱炭素ビジョンによって、

- 脱炭素社会を実現するには、**大胆な発想や事業構想や幅広い関係者との連携が必要**であることに気づくことができる。
 - 脱炭素をきっかけに、日々の暮らしの中にある課題も考えることで、検討すべき事業分野の幅が広がる。（“楽しい”or“本質的な”議論ができる）
- 神奈川県内の**エネルギーの状況や地域の特性**について理解ができる。
 - 神奈川県では**脱炭素エネルギーを「創る」よりも「上手に使う」**ことが大事。



関係者（市民、企業、行政）が、「**従来の議論よりも大きな視点での議論が必要**」という共通認識をもって、脱炭素社会の検討をスタートすることができる。
（ただし、かながわ脱炭素ビジョンの内容が、神奈川県の将来の「あるべき姿」では、決してない）

かながわ脱炭素ビジョンの位置づけ

- 神奈川県とIGESが共同作成し、脱炭素社会の将来像や今からできることなどを提示した文書
- 脱炭素社会を目指す「神奈川県地球温暖化対策計画」改定素案の参考資料として位置づけられる。
- パブコメ(2021/10/12-2021/11/10)などのプロセスを経て、2022年3月までに策定される。

	中期目標(2030年度、2103年比)	長期目標(2050年)
現行目標	△27%	△80%
新目標(案)	△46%	脱炭素社会の実現
(参考)国の目標	△46% さらに、50%の高みに向けて挑戦	脱炭素社会の実現

かながわ脱炭素ビジョンの必要性

脱炭素社会の実現には、ライフスタイルの変革が必要とされる中で、神奈川県庁内や県内市町村(特に中小規模の市町村)から、以下のような意見が多く寄せられていた。

脱炭素社会はどのような姿なのか？

何をすればよいのか、できるのか？

一人一人の暮らしがどう変わるのか？

県民が過ごす**時間のカテゴリ**に着目して脱炭素を描く =>**人の視点**を通じて、各部門のつながりが見える

かながわ脱炭素ビジョンで着目した人々の時間

家にいる 時間	○ 住宅 ○ 育児・教育・介護 ○ <u>食(料理と食事)</u> ○ 入浴 など
移動する 時間	○ 自家乗用車(+シェアリング) ○ <u>公共交通としての自動車</u> ○ 鉄道 など
外での 時間	○ デスクワーク ○ 工場・倉庫・工房で働く ○ 商店・販売所で働く など

(参考)神奈川県地球温暖化対策
計画において施策を検討する部門

- ・ エネルギー転換部門
- ・ 産業部門
- ・ 業務部門
- ・ 家庭部門
- ・ 運輸部門
- ・ 廃棄物部門

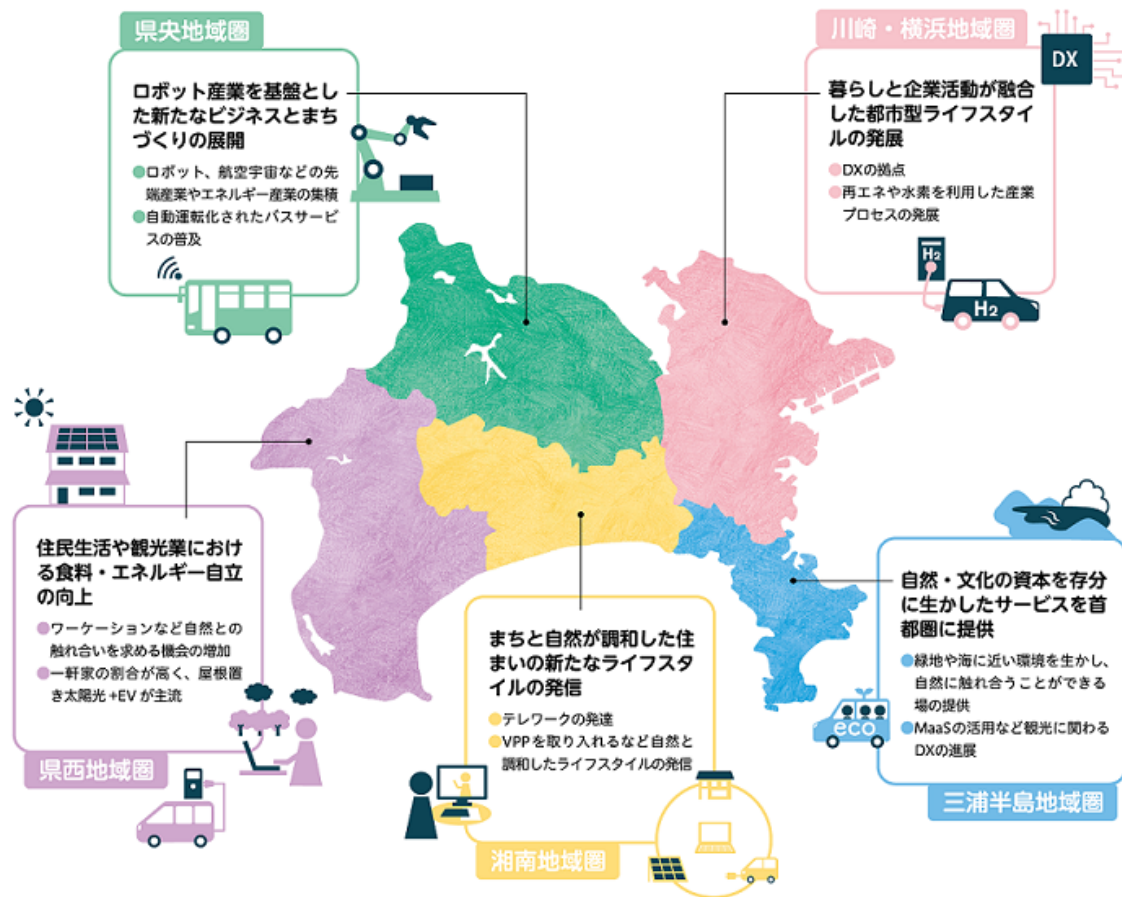
(例) 家にいる時間 **食**(料理と食事)に関わる時間(抜粋)

将来像	- 購入した食材をIH(誘導加熱)調理器や電子レンジといった電気調理器具で調理 - 野菜などの食材は、家庭菜園、地域でとれた食材など地産地消が上手に取り入れられている。 - 簡単に済ませる調理方法と時間をかけて丁寧に行う調理方法など、個人の好みやスケジュールに応じた選択が可能となっている。
今からできること	電気調理器具を主流とした調理方法への転換の検討 新たな食生活(食の形態、食材選び、調理方法など)の検討
同時解決事項	食に関わる手間が減る バランスの取れた食生活の達成 食品ロス的大幅な削減 地産地消の促進
温室効果ガス削減への貢献	- 食品や日用品の加工製造、流通等に関する温室効果ガス削減 - 調理時のCO₂排出削減

(例) 外での時間 **工場・倉庫・工房**で働く時間(抜粋)

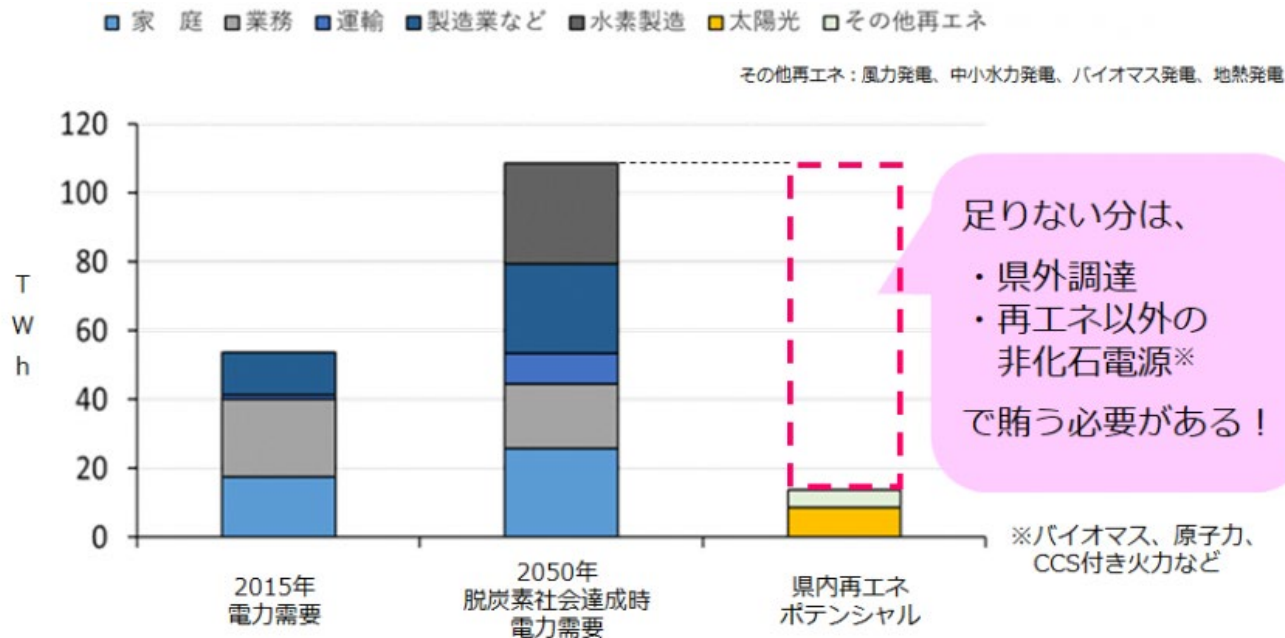
将来像	• 工場や倉庫内の多くの生産プロセスは自動化され、現場の人は、監視センターに数人いる程度となっている。 • 調達・生産・輸送・販売の情報をリアルタイムに共有し、AI などを活用して需給予測を行うことで、サプライチェーン全体での物量が最適化されている • 工場の稼働状況の一部は、自宅のパソコンからも確認
今からできること	• データや情報処理に関わる知識の取得やそれを促す人材育成 • 業務環境における高度技能のデータ化 • 企業間、産学、官民の連携強化(法整備含む)
同時解決事項	• 人手不足の解消 • 生産量の適正化による在庫管理費用等の節約 • 24 時間生産による資本生産性の向上 • 生産プロセスを中断しても問題ない行程がある場合は、ダイヤモンドレスポンスにも貢献
温室効果ガス削減への貢献	• 機械化、電化によるエネルギー消費量と化石燃料使用量の減少

神奈川県総合計画 と整合する形で5つ の地域圏ごとに地域の 魅力を踏まえた脱 炭素な将来像を描く。



脱炭素社会におけるエネルギー利用と 再エネポテンシャルについて分析

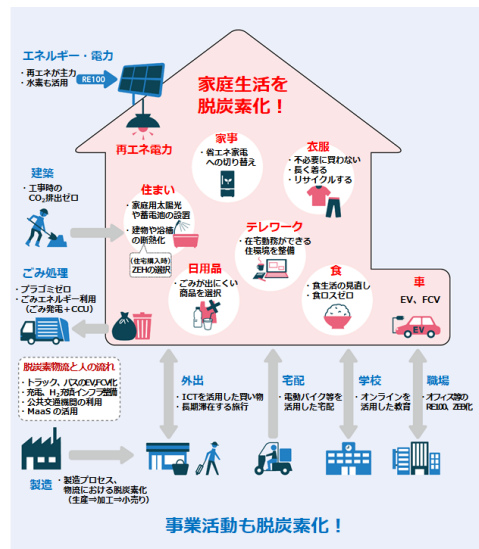
- 脱炭素社会における神奈川県内のエネルギー需要を賄うには、県外からに再エネ調達などが必要。



かながわ脱炭素ビジョン策定に用いた情報

- ✓ 神奈川県内の市町村の総合計画やマスタープランのレビュー
- ✓ 神奈川県内の市町村への個別インタビュー調査
- ✓ 神奈川県庁関連部局からのコメント
- ✓ 神奈川県内の市町村の各種統計資料に基づく地理的特徴、経済的特徴の分析
 - 人口動態、居住建物種類、付加価値額からみる主な産業、県民が従事する主な産業、産業別移動方法、県民の職種、一人当たり各種面積（農地、緑地、公園、森林、海岸保全
区延長距離）、再エネポテンシャル、エネルギー消費データ、業種別市町村別CO₂排出量データ
- ✓ パブリックコメント

かながわ脱炭素ビジョンの活用案①:市民、学生、企業が将来の暮らし、ビジネス戦略を議論する際の参考資料



出典: かながわ脱炭素ビジョン



脱炭素型ライフスタイルを考えるワークショップ in 鹿児島の様子
参考: <https://www.iges.or.jp/jp/events/20211211>

1.5°C ライフスタイルプロジェクト

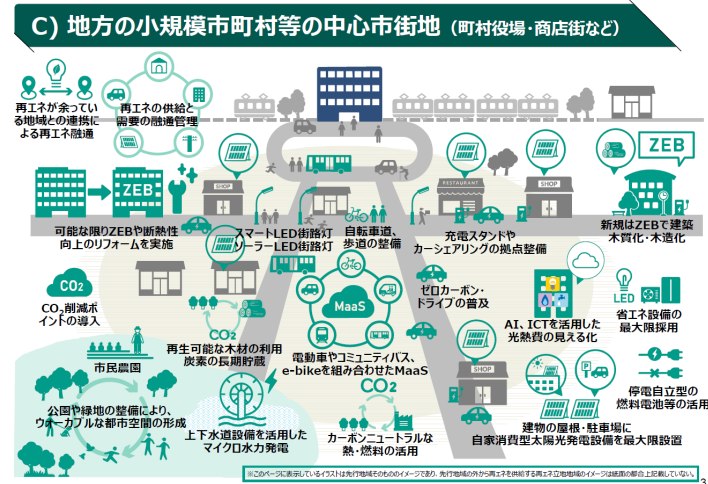
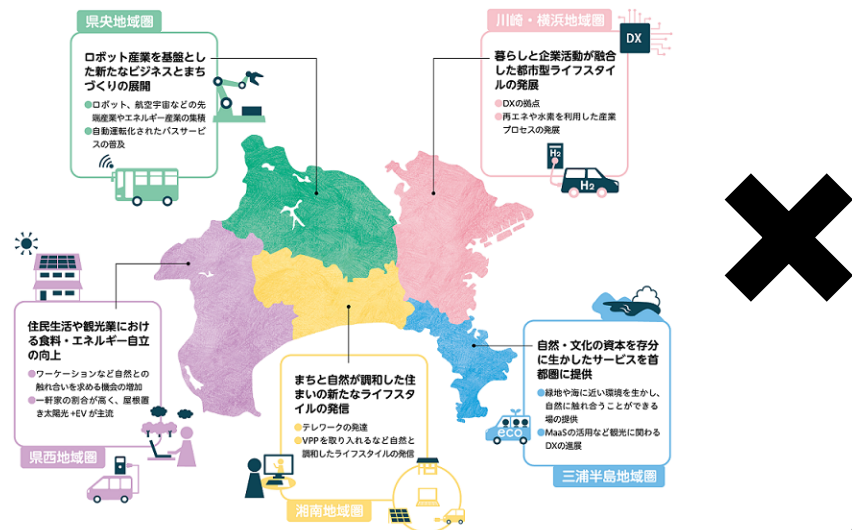
オプション・カタログ

北九州市版
2021/11/12 改訂

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)

脱炭素社会を実現するために、どのような変化が必要で、何をすればよいのかという議論を促す

かながわ脱炭素ビジョンの活用案②:「脱炭素先行地域」に関するプロジェクトアイディア形成の際の参考資料



出典: 地域脱炭素ロードマップ概要: ~地方からはじまる、次の時代への移行戦略

出典: かながわ脱炭素ビジョン

地域の課題解決やリソースを活用する提案の作成に貢献

ご清聴いただき誠にありがとうございました。



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ap4/bijyon/datutanso-bijyon.html>

(例)移動する時間 **自家乗用車(+シェアリング)**による移動(抜粋)

将来像	- EVの電池は、VPP(バーチャル・パワー・プラント)としてデマンドレスポンスの機能があり、非常用の電源にも利用できる - 目的や嗜好をスマホ端末等で選択すると、目的地までの移動ルートやシェアリングを含めた移動方法が提示される - 車内は運転や移動を目的とした空間だけではなく、リビングルームのように快適に過ごす空間、在宅勤務で利用する仕事部屋にもなっている。
今からできること	- 給電設備の整備と実証(無線給電の実証実験含む) - 賃貸用の駐車場にも充電設備の設置を促す制度づくり
同時解決事項	- 在宅勤務が可能な環境の創出 - VPPによる再エネ利用の促進 - 災害時の電源確保
温室効果ガス削減への貢献	ガソリン、ディーゼル燃料由来のCO₂削減